

11 地藏信仰の変遷—仏教の日本化の視点から

【全4回】／開催方法：ZOOM

かとう
加藤みち子

武蔵野大学
特任教授
中村元東方研究所
主任研究員



受講料 会員料金：¥9,000 早割価格：¥8,000(納入期限：8月16日)

【日程・時間】【全4回】 8月17日(土) 10:30~12:00・13:20~14:50
8月18日(日) 10:30~12:00・13:20~14:50

■受講に必要なもの

[テキスト] レジュメ配布

道端の「お地藏様」は、現在でも多くの日本人に親しまれていますが、地藏信仰とは何かということや、仏教とのかかわりについては、かならずしも明確に理解がなされていないようです。本講座では地藏信仰のインド・中国からのうつりゆきと、日本で独自の発展をとげる様相と、現在へのつながりを、具体例やスライドを見ながら考えていきたいと思ひます。

1 時限目 インド・中国における地藏信仰—仏教の中の地藏

まず、仏教経典の中での「地藏菩薩」の位置づけから読み解いていきます。インド成立経典のクシティガルパがどのような性格の菩薩であったのか、日本の「おじょうさま」との相違に着目して読み解きます。

2 時限目 閻魔大王と地藏信仰

ここでは、閻魔信仰とのかかわりで人気を博していく、日本の地藏菩薩信仰について、日本中世における「地藏信仰」発展の背景から考えていきます。

3 時限目 地藏信仰の諸相

道祖神と習合し道端にまつられる地藏尊、そして賽の河原で子供たちの守護者として活躍する地藏菩薩がどのように生み出され、発展したのかをみてゆきます。

4 時限目 江戸時代から現代へ—地藏信仰の展開

六地藏や、笠地藏、しばられ地藏や身代わり地藏、水子地藏まで、日本で現在も親しまれる、地藏菩薩のいろいろな姿がどのようにうみだされ、現代でも祀られ続けているのかを整理し、仏教の日本化ということ考えていきます。

【参考文献】

- ・速水侑 『地藏信仰』 はなわ新書 1975年
- ・下泉全暁 『地藏菩薩』 春秋社 2005年
- ・田中久夫 『地藏信仰と民俗』 岩田書院 2008年
- ・松崎憲三 『地藏と閻魔と奪衣婆』 慶友社 2012年